

プレスリリース

2021年5月14日
国境なき医師団 (MSF)

地中海で難民・移民の捜索救助活動を再開——今年すでに 555 人が死亡

国境なき医師団 (MSF) は 5 月 13 日、リビアから命がけで欧州を目指し、地中海を横断する難民・移民の命を救うため、地中海中央部での海難捜索救助活動を再開した。今回、MSF は単独で「ジオ・バレンツ」号をチャーターし、海難者の救助と救急医療にあたる。同船には医療スタッフとして、日本から派遣された助産師も乗船している。

「欧州の玄関口」で繰り返られる悲劇

2015 年以降、欧州の玄関口である地中海では数万人におよぶ難民・移民が溺死、またはリビアに強制送還されてきた。5 月 13 日現在、今年に入って地中海中央部を横断シタリアに到着した人の数は約 1 万 3000 人に上ったが、少なくとも 555 人が死亡または行方不明となっている。直近では 4 月 22 日に 130 人以上が命を落とす難破事故が発生した。また今年、7000 人以上の難民・移民が、欧州連合 (EU) が支援するリビアの沿岸警備隊に捕えられ、リビアに強制送還されてきた。送還者のほとんどは、危険な収容センターに閉じ込められ、虐待、性暴力、搾取など、生命を脅かす危険にさらされている。

MSF のオペレーション・マネジャーを務めるエレン・バン・デル・ベルデンは、「MSF が地中海での活動を再開したのは、欧州の無謀な政策が海難者を放置し、人びとを死に追いやっているからです」と話す。「ここ数年、欧州政府は、地中海中央部での積極的な海難捜索救助活動から次第に遠ざかり、危険にある人びとを助けるどころか、救助にあたる NGO の活動を、意図的に妨げたり犯罪視したりしてきました。一連の政策で、何千人もの人びとが海で漂流し、欧州の南側国境近くで溺死しているのです」

欧州の政策見直しを強く求める

MSF は EU に対し、リビア沿岸警備隊への支援と、リビアへの強制送還を打ち切るよう、強く呼びかけている。バン・デル・ベルデンは「この人災を前に、MSF は沈黙しません」と訴える。「EU は人びとを苦しめる活動の支援を直ちに止めるべきです。加盟国に求められているのは、地中海中央部における国家主導の海難捜索救助活動の早期再開なのです」

MSF は 2015 年に地中海での海難捜索救助活動を開始して以来、7 隻の救助船で医療チームを送り、時には他団体と共同で船を運航してきた。海難捜索救助活動合計 682 回に上り、8 万 1000 人以上を救助した。



MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団

ジオ・バレンツ号について：

MSF がノルウェーのウクスネイ社（Uksnøy & Co AS）からチャーターした船。2007 年に造船され、地震観測船としてノルウェー船籍で使用されていた。海難捜索救助活動を行うにあたり、必要な改造を施した。船の全長は 76.95m。救助者のために、男性用と女性・子ども用の 2 つのデッキがある。医務室、助産師室、観察室で MSF のすべての医療活動を行う。本船は 2 隻の高速救助艇を備え、救助活動時に使用する。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平

携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press